

静岡県

病院協会会報

2019. JUL.

vol. 58



「患者さんの視点を重視」
したがん医療の提供
静岡県立静岡がんセンター（長泉町）

「いつも患者さんを第一に、
質の高い医療を目指して」
藤枝市立総合病院（藤枝市）



Contents

2019年度 通常総会・記念講演会を開催・・・2	病院紹介
2019年度 通常総会 会長挨拶・・・3	静岡県立静岡がんセンター・・・6
毛利 博 会長	藤枝市立総合病院・・・8
時言：「医療情勢について」	県審議会・協議会等 会議出席報告・・・10
徳永 宏司 理事（一般社団法人静岡県医師会 副会長）・・・4	2019年度 研修会等開催予定・・・12
時言：「門外漢として」	ふじのくに医療勤務環境改善支援センター・・・14
河原崎 聖 理事（静岡県議会議員）・・・5	

公益社団法人 静岡県病院協会

ホームページ URL : <http://www.shizuoka-bk.jp/> / E-mail : web@shizuoka-bk.jp

2019年度 通常総会・記念講演会を開催

2019年5月27日(月)、グランディエールブクトーカイ(静岡市葵区)において、2019年度通常総会及び記念講演会を開催しました。

通常総会では、毛利会長の挨拶の後、来賓の静岡県健康福祉部長 池田和久様、一般社団法人 静岡県医師会会長 紀平幸一様から祝辞をいただきました。

毛利会長は挨拶で、「日本は急激な人口減少というこれまで経験したことがない状況の中で、医療改革は待ったなしであり、これまでとは異次元の発想が必要である。」と述べ、また、来賓祝辞の中で、静岡県健康福祉部の池田部長からは、県の医療行政の推進への協力についてのお礼とともに、「働き方改革を受け、県に設置した「ふじのくに医療勤務環境改善支援センター」事業により、健康で安心して働くことができる職場づくりを支援していく。」、さらに、静岡県医師会の紀平会長からは、「医師不足や偏在、医師の働き方改革など地域医療の諸問題に、県医師会と静岡県病院協会が十分な連携のもと、本県の地域医療体制を維持しつつ取り組んでいきたい。」とのご発言がありました。

議事では、公立森町病院の中村昌樹院長が議長に選任され、第1号議案「平成30年度報告に関する件」、第2号議案「平成30年度収支決算及び財産目録の承認に関する件」、第3号議案「第5期役員の補充選任に関する件」について審議が行われました。

いずれの議案も全会一致で承認され、第3号議案について、辞任した曾田尚寿専務理事兼事務局長の後任として、高橋治子事務局長が理事に選任され、総会後に開催された臨時理事会で専務理事に選定されました。

また、報告事項では、自民党県連への要望に対する回答などが報告されました。

引き続き行われた記念講演会では、講師としてお招きした一般社団法人日本病院会の相澤孝夫会長

から、「地域医療構想・働き方改革・医師偏在対策・医療従事者の需給等の医療政策において国は何を目指しているか」というテーマで、ご講演いただき、このテーマが示すとおり、2040年を展望した三位一体の医療提供体制改革が進められていることについて、参加者一同認識を深めました。



記念講演会の様子



2019年度 通常総会 会長挨拶



会長
(藤枝市立総合病院
事業管理者)

毛利 博

本日は、真夏を思わせる非常に暑い中かつ大変御多忙な中、静岡県病院協会通常総会にお集まりいただきお礼申し上げます。

さて、少子高齢化の影響が徐々に現れてきています。特に静岡県では、東部において高齢化が進み、人口減少のフェーズに入ってきているように感じています。これから静岡県全体が人口減少社会になっていきますので、今こそ、今後10年・20年先を見据えた医療の在り方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

医師不足に関しましても、静岡県や大学による様々な努力にも関わらず、依然として解消していないのが現状です。今後も医師の偏在が顕著になり、大都市に医師が集約化し、静岡県が取り残されないようにする必要があります。それぞれの病院が危機意識を持ちながらどのようにして地域医療構想を実現するかを真摯に議論していかなければならない時が来ていると思っております。

また、次年度の診療報酬改定が本年度秋には示され、皆さんの病院もその対応に忙しくなることが予想されます。

社会保障問題は、2025年問題の方向性が定まらない中、2040年問題に焦点が移り始めており、高齢化から多死社会への対策が進もうとしています。

総務省と厚労省が自治体病院の在り方、特に急性期病床の削減をどのようにするのか、ま

た、2025年問題が十分に咀嚼されていない現状ですが、これから様々な提言が出てくるようです。現状では残念ながら地域医療構想は遅々として進んでおらず、今後は、回復期、慢性期を担っておられる民間病院に対しても何らかの施策が出てくるものと思っています。その時に慌てないように情報を共有化していく必要があります。

日本は急激な人口減少というこれまで経験したことがない状況の中で、これまでの施策の中では対応できない状況になることは十分に考えられます。医療改革は待ったなしであり、これまでとは異次元の発想が必要になっていくように思っている次第であります。

現在の日本の医療の現状をお話ししましたが、本日は、平成30年度の事業報告、収支決算及び財産目録の承認等について御審議をいただくこととなっていますので、よろしくお願い申し上げます。

(もうり ひろし)



時 言



「医療情勢について」

公益社団法人静岡県病院協会理事

一般社団法人静岡県医師会副会長 徳永 宏司

1961年の国民皆保険制度の成立以来58年が過ぎ、今や、日本は世界でも有数の長寿国となり、この制度の評価は誰しもうかがうべきものである。しかし、時代は進み医療技術の進歩、医薬品の進歩は著しいものがあり、同時に少子高齢化が進んだことで医療費は40兆円を超すまでに至った。国は、2025年を見込んで地域医療構想において医療提供体制の再編に取りかかり、現在は、総論から各論に至るところである。2002年小泉政権当時、新医師臨床研修制度を導入し15年以上経った今、医師の地域偏在、診療科偏在が顕著となり、地域医療の格差が広がりつつある。

昨年7月25日、「医療法及び医師法の一部を改正する法律」が公布された。概要は、1. 医師の少数区域等で勤務した医師を評価する制度の創設 2. 都道府県における医師確保対策の実施体制の強化 3. 医師養成過程を通じた医師確保対策の充実 4. 地域の外来医療機能の偏在・不足等への対応 5. 地域医療構想の達成を図るための医療機関の開設や増床に係る都道府県知事の権限の追加、健康保険法等について所要の規定の整備などである。

また、今回、「外来医療の偏在指標」の作成が提案され、各都道府県がそれに基づき「外来医師多数区域」を設定し、当該区域で新規開業する場合、在宅医療や、初期救急医療、公衆衛生など地域で求められる医療機能を担うように求めた。本年度中に都道府県が外来医療の医療

計画を策定、2020年4月から計画に基づく取組が実施される。新規開業に必要な届け出様式には地域で定める「不足する外来医療機能を担うことに対する合意欄」を設け、協議の場で確認する。地域の協議方針に従わない医療機関がある場合は、都道府県医療審議会に報告して意見聴取することになる。現在、二次医療圏単位で検討されている病床についての調整会議が、今後は外来医療でも行われることになる。しかしながら、外来医師偏在指標は、医師の絶対的な充足状況を示すものではなく、あくまでも相対的な偏在を表すものであり、外来医師偏在指標の数値を絶対的な基準として取り扱うことや、外来医師偏在指標のみに基づく機械的な運用を行うことのないようガイドラインにも示されている。そして、これらは決して強制力を持つものではなく医師会としては強制的手法の導入には反対を貫く方針である。

政府は総合的な医療提供体制改革を実施するため、働き方改革と共に三位一体で進めていく方針を決めた。医師会と病院協会は連携して主導的立場で、県行政、各自治体との地域医療構想調整会議を強い権威を持って、県知事の権限が発揮されることなく進めていかなければならない。

(とくなが こうじ)

時 言



「門外漢として」

公益社団法人静岡県病院協会理事
静岡県議会議員 河原崎 聖

県議 1 期目の最終年に当たる昨年度、理事に就任していただき、早 1 年が経ちました。この春の統一地方選を何とか乗り越えさせていただき、県議として 2 期目を迎えることになりましたが、静岡県病院協会にも、引き続きお世話になることとなりました。今後とも、皆様にはご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、静岡県は全国的に見ても医師数の少ない県となっており、限られた医療資源の中で高齢化が急速に進むこれからの時期をいかに乗り越えていくかは、地方自治の現場にかかわるものとして最重要課題と受け止めています。実際に、私の 82 歳になる母も白内障の治療を受けていますが、地元の市立島田市民病院では眼科の医師がいないため、隣の藤枝市立総合病院に手術をお願いすることとなりました。このような二次医療圏における横の連携はますます重要になってくるでしょう。

また、地域住民の協力も欠かせません。私の住む島田市では、県内ではいち早く「地域医療を支援する会」が発足し、コンビニ受診の防止や市民病院を始めとする医療機関に対する感謝の気持ちを示す活動を地道に続けております。私もこの会の一員として活動させていただき、島田市議会の議長時代にはこれに関する条例を議会提案の形で進める取り組みを行いました。

地域医療構想の推進など、地域医療における県の役割は非常に大きいものと感じています

が、私もこの会の一員として、また、県議会議員として、地域医療を守るために少しでもお役に立てればと考えております。静岡県病院協会ではちょっと異質な立場のメンバーではありますが、それを生かして皆様と相乗効果を発揮できるように努めて参ります。

(かわらざき きよし)



病院紹介



「患者さんの視点を重視」したがん医療の提供

静岡県立静岡がんセンター
病院長 高橋 満

はじめに

静岡がんセンターは「患者さんの視点を重視」したがん医療の提供を基本理念として、2002年9月に診療を開始しました。

以来、医師、看護師をはじめ、様々な職種がチームとなって最善のがん医療を提供し、患者さんご家族を徹底支援することに努めています。

高度ながん医療の提供

がん治療にあたっては、がんの根治を目指した難易度の高い手術を手がける一方、体への負担の少ない内視鏡手術や体腔鏡下手術、ロボット支援手術を導入し、その技術の開発と向上に努めています。

また放射線治療では最新の治療装置をいち早く導入し、陽子線治療と一体となって、より少ない合併症で、治療成績が向上するよう図ってきました。

さらに、新しい薬剤の治験、治療薬の組み合わせ（レジメン）についての臨床研究にも積極的に取り組み、そこで得られた知見を情報処方の考えに基づき「処方別がん薬物療法説明書（患

者さん向け）」として患者さんに提供するなど、治療とともに副作用の低減にも取り組んでいます。



放射線治療 TrueBeamST



陽子線治療 回転ガントリー照射室



大腸外科ダヴィンチ手術

患者・家族の徹底支援

がんの診断は患者さんだけでなく、ご家族にも大きな衝撃をもたらします。がんの治療成績も徐々に向上してきましたが、まだまだ精神的、肉体的にもつらいものがあります。あらゆる治療にもかかわらず、残念ながらがんが再発、転移して、お亡くなりになる方がいることも現実です。

静岡がんセンターでは、開院当初から「よろず相談」の窓口を設け、がんに関するあらゆるご相談にお応えできる体制をとっています。

また、当センターで治療を受けている患者さんとその家族が、十分な治療を受け、安心してがん向き合って生活できるよう「患者家族支援センター」を設置して支援を行っています。

さらに、がんの症状や治療に伴う副作用の治療、予防やケア（支持療法）に多職種の医療チームであたり、がん医療の過程で生じる心身の痛みを初めとするさまざまな苦悩の緩和に努めています。



よろず相談カウンター（相談支援センター）



患者家族支援センター受付

年齢や身体状況に応じたがん医療

すでにわが国は人口減少期に入っておりますが、高齢者、特に75歳以上の人口は増え、がん患者数は増加すると考えられます。静岡がんセンターでは、がん以外の慢性疾患をもち、また年齢とともに身体機能が低下する高齢患者さんの身体状況に応じた治療を行っています。

一方で、小児科を設置している数少ないがんセンターとして、がん治療後にがん体験者として生きる若者や15～29歳でがんを発症した患者（adolescence and young adult: AYA世代）について、その世代特有の医学的、社会的課題の解決に取り組んでいます。

プロジェクトHOPE

2014年から、遺伝子（ゲノム）解析に基づき、個々人ごとにがんの性質や体質を解析し、がんの個別化医療をめざすプロジェクトHOPEを開始しました。遺伝子解析の結果に基づき、がんの罹患リスクを予測し、発病前診断や発病予防の研究に取り組んでいます。



遺伝子解析次世代シーケンサー

おわりに

少子高齢社会に入り、新しい時代の医療のあり方が国を挙げて議論されています。静岡がんセンターでは、これからも世界レベルのがん医療を目指すとともに、同時に地域との医療連携を進め、患者さんの視点に立ち、通院、入院、在宅診療までの一貫したがん医療を進めてまいります。

病院紹介



いつも患者さんを第一に、質の高い医療を目指して

藤枝市立総合病院
院長 中村 利夫

当院は藤枝市のほぼ真ん中、1号線バイパスと東海道線の間にある高台に位置します。晴れた日には8階建ての当院からの眺望は素晴らしく駿河湾や遠く伊豆半島も望め、院内のドトールコーヒーからの富士山の眺めは藤枝眺望八景にも選ばれています。また毎年8月7日の蓮華寺池の花火大会では当院の立体駐車場は知る人ぞ知る隠れた見物の名所となります。当院は昭和25年に6科、50床の志太病院として藤枝駅南に開設され、来年で70周年を迎えます。平成7年に現在の地に移転するとともに名称も藤枝市立総合病院に変更し、現在は35診療科、564床、医師140名（研修医含）、全職員数1,143名（臨職含）の「がんと救急」に強い地域の中核病院としての役割を担っています。



病院から富士山を望む

救急医療

平成29年4月に県内では11番目となる救命救急センターの指定を受け、救急病棟20床、ICU 8床、NICU 6床を整備し現在では年間約15,000人の受診と救急車は6,000台余を受けており、地域の救命救急センターとしての役割を担って



救命救急センター



ドクターカー（平成30年度導入）

います。在籍する救急医4名と循環器内科、消化器内科、呼吸器内、外科、整形外科、脳神経外科などの各科が連携し断らない救急を原則とし24時間体制で対応しています。

がん診療

当院は平成19年に県内で当院を含めて10ヶ所あるがん診療連携拠点病院の指定を受けています。これまでに鏡視下手術など手術器具の充実や放射線治療機器（リニアック）などを更新するなど質の高いがん医療を提供することができるよう、がん診療連携拠点病院として整備をすすめてきました。さらに2018年の藤枝市がん対策推進条例制定にともない、今後は低侵襲手術



リニアック（平成30年度導入）

室（2室）及び手術支援ロボットの整備を計画しています。

臨床研修

臨床研修指定病院として医療を志す医師の教育や育成も当院の重要な使命のひとつです。当院では研修の質の向上を目的とし、臨床研修の現状を客観的に把握するために平成25年より第三者評価機構であるNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定を取得しております。現在では全国で254病院がJCEPの認定を受けていますが、厚労省の省令においては『第三者による評価を受け、その結果を公表することが強く推奨されること。』とされており、将来はJCEP認定が研修病院の必須の要件となると予想されます。現在は30名の初期研修医が所属しており、当院のプログラムの基本である救急に対応できプライマリ・ケアの基本的診療能力を身につけた医師となることを目指し日々研修に励んでいます。



初期研修医の研修風景

地域医療

少子高齢化が急速に進行する中、限られた資源で増加する医療及び介護需要に対応していくためには、今まで以上に地域における医療と介護の連携が重要になってきます。当院も医療・介護ネットワークを推進していく必要を考え2017年から「藤の花かんかんネット」を設置し、訪問看護を推進しており、2019年からは「みなし訪問看護」を実施し、徐々に実績が上がってきているところです。また、医師、看護師だけでなく、検査技師・薬剤師・栄養士・MSWなど多くのスタッフが多職種で連携して急性期の医療から退院時の支援、在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において切れ目なく総合的に確保することが重要であると考え病院職員一丸として取り組んでおります。そのためにも医師だけでなくすべての医療スタッフの人材育成は非常に重要なものとなり、当院では様々な支援を進めています。認定看護師に加え特定行為看護師の育成にも努めており現在すでに3名が取得、活動しており今後さらに増員を予定しております。



地域と連携した訪問看護の取組

おわりに

現在のわが国の病院を取り巻く環境は厳しいものがあります。当院の基本理念「厳しき科学と温かき心」のもと、現状に満足することなく常に医療の質の向上を追求し、患者さんの立場を第一とした安心・安全な医療を提供できるよう職員一丸となって頑張りたいと思います。

県審議会・協議会等 会議出席報告

医療関係等の県審議会・協議会等へ、当協会の役員等が委員として就任しています。

本年4月以降に開催された会議について、出席した委員から会議の概況について、次のとおり報告がありました。

1 第1回地域包括ケア推進ネットワーク会議

開催日：令和元年5月7日（火）

出席者：会長 毛利 博

「内 容」

(1) 地域包括ケア推進ネットワーク会議の進め方

（静岡県長寿社会保健福祉計画の進捗管理及び時期計画策定の体制）

本会議の位置づけの確認と計画の進捗管理と策定のため新たに「保健福祉計画推進・策定部会」を設置することについて了承された。

具体的なメンバーは、事務局と議長で検討する。

(2) 各圏域会議・部会におけるこれまでの取り組み報告と今後の進め方

ア 地域医療構想調整会議

イ 地域包括ケア推進ネットワーク会議（圏域会議）

ウ 認知症施策推進部会

エ 地域リハビリテーション推進部会

事務局の説明が長く、議論する時間が十分とはいえず、今後の課題となろう。

(3) その他

静岡県薬剤師会から「平成30年度 多職種と連携した在宅訪問業務の実施」について報告があった。藤枝薬剤師会をモデル地区とした在宅訪問の成果を示した。概ね良い結果となっていたが、これをどのように拡大するか、かかりつけ薬局との関連等解決すべき問題がまだ残っている。

2 第1回静岡県在宅医療体制整備・推進協議会

開催日：令和元年6月13日（木）

出席者：会長 毛利 博

「内 容」

(1) 今年度における静岡県在宅医療推進センター事業の実施計画について

新規2件、継続3件が報告され、承認された。

(2) 関係団体における今年度の在宅医療関連事業の実施計画について

看護協会、歯科医師会、薬剤師会等から本年度の事業計画の骨子が報告され、特に質問もなく了承された。

(3) 新たな静岡県医師会館に整備される「静岡県在宅医療・介護連携推進センター（仮称）」が重点的に取り組むべきテーマ・事業の柱について

4階にセンター（仮称）が設置される。部会での議論の結果出てきた求められるテーマ・役割などが示された。今後さらなる検討が必要となろう。

(4) シズケア＊かけはし（静健在宅医療・介護連携除法システム）モデル事業の取り組み成果の展開について

3病院（伊豆赤十字病院、富士病院、静岡赤十字病院）と10医師会の取り組みについて報告がなされた。

(5) その他

自由討論がなされた。

3 静岡県「人生の最終段階における医療・ケアの在り方」に関する検討会

開催日：令和元年7月8日（月）

出席者：会長 毛利 博

「内 容」

特養芦花ホームの石飛幸三氏から「穏やかな最期を迎えるために－平穏死のすすめ」というテーマで講演をいただいた。

そのあと「看取りの現状と課題、理想の看取りとは」というテーマで意見交換をおこなった。それぞれの立場から様々な意見が出たが、まだ集約する段階ではなく、今後議論を進めて方向性を出していくことで終了した。

4 第4回 静岡県防災会議専門部会（南海トラフ地震防災対応）

開催日：令和元年7月10日（水）

出席者：副会長 荻野和功

「議 題」

- (1) 国ガイドラインの概要説明
- (2) 第4回専門部会における意見とその対応
- (3) 県版ガイドライン策定
基本方針など
モデル地域の選定

- (4) 今後の進め方

「報 告」

- (1) 「南海トラフ地震臨時情報」に基づく県の配備体制と担当業務
- (2) 静岡県地域防災計画への反映

5 静岡県西部ドクターヘリ運航調整委員会

開催日：令和元年7月24日（水）

出席者：理事 奥田康一

「内 容」

- (1) 座長 徳永宏司 県医師会副会長挨拶
静岡県西部ドクターヘリは運用開始後19年、累積運航回数約9400回になるが、大きな事故なく順調に運用されている。
- (2) 基地病院（聖隷三方原）荻野和功院長挨拶
当事業は県委託の公的事業であり、年1回運航調整会議を開催し、事後検証会も毎月開催している。近年の豪雨時には残念ながらヘリは運航できない。
- (3) 検討事項 聖隷三方原病院高度救命救急センター 早川達也センター長説明
静岡県西部ドクターヘリ運航要領の改訂について説明あり、安全管理部会の新たな設置と本文の文言訂正についての説明があった。もともと当ドクターヘリの運用は全国的にも先進的役割を果たしており大きな変更点はないとのことであった。
- (4) 報告・発表 平成30年度静岡県西部ドクターヘリの運航状況について

早川センター長から報告された。総出動回数は448件で、愛知県への出動も17件あった。内因性：外因性は1：2で、高齢者の比率は予想外に増加していなかった。

「結 果」

静岡県西部ドクターヘリ運航要領の改訂について会議出席者から異議なく同意された。

「会員の情報共有が必要な事項」

静岡県西部ドクターヘリは現在まで安全に運航されており、救急医療に重要な役割を果たしている。

6 第2回医療対策協議会議題

開催日：令和元年7月30日（火）

出席者：会長 毛利 博

「議 事」

- (1) 医師確保計画の骨子（案）について

目標医師数は下位少数医療圏の解消を目指し、2036年までに医師の偏在の解消を目指すことについて、その目標設定について議論があった。

施策として、地域枠医師の確保、キャリアー形成プログラムの策定、医師修学研修資金制度（原則6年）、専攻医の確保、定着促進の推進、寄付講座の充実、医師の働き方改革を踏まえた勤務環境改善支援があげられた。

産科・小児科の医師確保については、委員から集約の必要性が述べられた。

医師少数スポットについては、国の動向を注視して検討をすすめることになった。様々な意見が出た。

「報 告」

- (1) 地域医療構想調整会議の今後の進め方について

公立・公的医療機関等における具体的対応方針の検証

療養病床転換意向調査 介護医療院への転換意向など

外来医療計画

地域医療介護総合確保基金

- (2) 看護職員受給推計について

公益社団法人 静岡県病院協会

2019年度 研修会等開催予定

第59回静岡県病院学会

日 時 令和2年2月15日(土)13:00～16:30
会 場 グランシップ 会議ホール「風」(静岡市)
テーマ 多文化共生時代の医療を考える
内 容 基調講演及びシンポジウム
講 師 国立国際医療研究センター 国際診療部
特任研究員 堀 成美 氏

病院管理研修会

日 時 令和元年10月3日(火)14:00～16:00
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 ①保険診療の理解のために
②適時調査における指摘事項
講 師 東海北陸厚生局静岡事務所職員

勤務環境改善研修会(旧 病院管理研修会)

第1回 「講演と事例発表」
日 時 令和元年9月27日(金)18:00～20:00
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 「人は足りない!」に効く働き方改革
～時間外労働規制の開始を見据えた
働き方改革について～
講 師 (一社)看護職の採用と定着を考える会
代表理事 諸橋泰夫 氏
第2回 「講演と事例発表」
日 時 未定
会 場 静岡市内

病院機能評価受審支援セミナー・個別相談会

受審支援セミナー
日 時 令和元年11月8日(金)13:00～16:30
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 3rdG:Ver.2.0について
講 師 (公財)日本医療機能評価機構

個別相談会

日 時 令和元年11月8日(金)
16:40～18:00(セミナー終了後)
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)

診療報酬セミナー

日 時 令和2年2月28日(金)14:00～17:00
会 場 グランディエール ブケトーカイ
演 題 令和2年度診療報酬改定のポイント

と病院の経営対応

講 師 (株)ASK診療報酬研究所
代表取締役 所長 中林 梓 氏

経営管理研修会

日 時 令和元年9月3日(火)18:00～20:00
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 病院における消費税増税の影響と対策
講 師 税理士法人青木会計
代表社員 青木恵一 氏

医療機能分化連携研修会

全体研修
日 時 令和元年9月6日(金)18:00～20:00
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 地域医療構想の実現に向けた処方箋
～病床の規模等に応じた方向性～
講 師 浜松医科大学 医療福祉支援センター
センター長 特任教授 小林利彦 氏

東部地区

日 時 令和元年11月19日(火)18:00～20:00
会 場 富士交流プラザ
演 題 調整中
講 師 浜松医科大学 医療福祉支援センター
センター長 特任教授 小林利彦 氏

中部地区

日 時 令和元年10月30日(木)15:00～17:00
会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)
演 題 調整中
講 師 浜松医科大学 医療福祉支援センター
センター長 特任教授 小林利彦 氏

西部地区

調整中

勤務環境安全推進研修会(全体研修)

(旧 医療安全推進研修会)

日 時 10月予定
会 場 静岡市内
演 題 医療安全につなげる勤務環境改善
～働き方改革を視野に～
講 師 特定社会保険労務士 福島通子 氏
(厚生労働省 医師の働き方改革検
討委員会構成員)

勤務環境安全推進シンポジウム

(旧 医療安全管理シンポジウム)

東部地区

調整中

中部地区

日 時 令和元年12月5日(木)18:00～20:00

会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)

演題・講師 調整中

西部地区

日 時 令和元年11月20日(水)18:00～20:00

会 場 浜松市医師会館

演 題 調整中

講 師 浜松医科大学 医療福祉支援センター
センター長 特任教授 小林利彦 氏**医療対話推進者養成講座****基礎編**日 時 令和元年10月31日(木)10:00～18:00
11月1日(金)9:30～17:00

会 場 静岡県産業経済会館 大会議室(静岡市)

講 師 北福島医療センター
副院長 志賀 隆 氏
榛原総合病院
看護責任者兼副看護部長
増田伊佐世 氏**フォローアップ研修(事務補講を含む)**

日 時 令和元年12月16日(月)10:00～16:30

会 場 静岡県産業経済会館 第1会議室(静岡市)

講 師 榛原総合病院
看護責任者兼副看護部長
増田伊佐世 氏**感染対策支援セミナー****第1回**

日 時 令和元年9月1日(日)13:00～16:30

会 場 グランシップ 会議ホール「風」

テーマ HIV感染対策、インフルエンザ対策、
ノロウイルス・胃腸炎対策、疥癬・白
癬等皮膚科疾患、器材・器具・リネン
の処理とハウスキーパー**第2回**日 時 令和元年11月3日(日・祝日)
13:00～16:30

会 場 グランシップ 会議ホール「風」(静岡市)

テーマ 耐性菌と抗菌薬の適正使用等、血液・
体液曝露対策、気管切開・胃ろう・
CVポートの処置別感染対策、尿路感
染対策、結核対策**静岡県総合防災訓練・広域救護訓練視察**

日 時 令和元年9月1日(日)9:00～12:00

会 場 愛鷹広域公園(沼津市)

静岡県災害医療コーディネート研修会

日 時 令和元年8月11日(日)8:30～18:10

会 場 静岡県庁 危機管理センター(静岡市)

内 容 災害医療コーディネートチーム運営
技術・演習など講 師 災害医療AC T研究所
理事長 森野一真 氏 他**静岡県災害医療従事者研修会**

日 時 コース1

令和2年2月25日(火)・26日(水)

10:00～17:30

コース2

令和2年2月25日(火)・27日(木)

10:00～17:30

会 場 グランシップ 会議ホール「風」他(静岡市)

内 容 地震災害など発災直後の医療救護活
動の講義・演習**県民健康セミナー**

日 時 令和元年8月24日(土)14:00～16:00

会 場 沼津市立図書館 視聴覚ホール(沼津市)

演 題 認知症の理解とつきあい方

講 師 浜松医科大学副学長
内科学第一講座教授 宮嶋裕明 氏**「静岡県関係」****医療機関への労働時間等説明会**県及び労働局の主催により、県内東・中・西
の3箇所では11月に開催予定

ふじのくに医療勤務環境改善支援センターでは 次のような支援を行っています！

- 医療機関からの要請に応じ、アドバイザーを派遣し、指導・助言を行います。
- アドバイザーには社会保険労務士、医業経営コンサルタント、WLB（ワークライフバランス）推進委員（静岡県看護協会WLB推進事業委員）等の専門職を配置しています。
- 医療機関向け研修会の開催を県内各地で実施します。



お気軽にお問合せ下さい！

 **0 5 4 - 2 2 1 - 3 7 6 2**

相談料無料 平日 8:30～17:15（土日祝日を除く）

ふじのくに医療勤務環境改善支援センター
(静岡県地域医療課内)

連絡先 TEL 0 5 4 - 2 2 1 - 3 7 6 2

FAX 0 5 4 - 2 2 1 - 3 2 9 1

住 所 静岡県静岡市葵区追手町 9 - 6